

6 3 6 1 - 6 6 1
平成 1 9 年 6 月 2 7 日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

平成 1 9 年度病虫害発生予報第 3 号について

平成 1 9 年度病虫害発生予報第 3 号を発表したので送付します。

平成 1 9 年度病虫害発生予報第 3 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

発生予報の概要

作物名	病虫害名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	穂いもち	並	2
	紋枯病	並	2
	斑点米カメムシ類	多	2
普通期水稲	葉いもち	並	2
	ウンカ・ヨコバイ類	並	2
	コブノメイガ		3
露地野菜全般	アブラムシ類	並	3
	ハスモンヨトウ等チョウ目(鱗翅目)害虫	並	3
トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)		3
果樹全般	果樹カメムシ類		3
かんきつ	黒点病	やや少	4
	かいよう病	並	4
	ミカンハダニ	やや少	4
	チャノキイロアザミウマ	やや多	4
茶	炭疽病	並	4
	カンザワハダニ	やや多	5
	チャノコカクモンハマキ	並	5
	チャハマキ	並	5
	チャノホソガ	やや多	5
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	5
	チャノキイロアザミウマ	やや多	5
	クワシロカイガラムシ	多	5

については病虫害発生予察注意報を発表

作物の生育状況(6月中旬)

早期水稲は、平年と比較して草丈がやや低く、茎数が多いが、生育はやや遅れている。普通期水稲は移植直後～活着期であった。温州ミカンは果実肥大期、茶は2番茶摘採前後であった。

7月の気象予報

向う1か月の天候は、平年に比べて晴れの日が多く、気温は平年並か高い、日照時間は平年並か多いと予想されている。

(1か月予報 鹿児島地方気象台 6月22日発表)

発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 穂いもち（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の葉いもちの発生面積率7.9%（平成32.3%）は平年並み、発病株率0.5%（平成14.5%）は平年よりやや少である。

[防除上の注意]

- 1) 葉いもちが発生している場合は、穂ばらみ期から穂揃期の防除を確実に行う。
- 2) 雨が続く場合、感染の危険性が高いので雨間でも防除を行う。

2 紋枯病（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生を認めていない。（平成4.6%）
- 2) 7月の気温は平年並か高いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 穂ばらみ期の防除が基本となるが、上位葉鞘への進展が続く場合は2回目の散布を行う。

3 斑点米カメムシ類（多）

平成19年度病害虫発生予察注意報 第2号（平成19年6月25日発表）参照

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率28.9%（平成15.9%）は平年よりやや多、20回振り虫数1.9頭（平成0.4頭）は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 米の上位等級確保のためには穂揃期とその7～10日後の2回防除を厳守する。その後も発生が見られる場合には追加防除を行う。
- 2) 出穂の早い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。

普通期水稲

1 葉いもち（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生は確認されなかった。
- 2) 6月中旬のアメダス観測結果を基にしたBLSTAM判定によると、本病の感染好適条件が県内各地域で、複数回、散発的に発生している。
- 3) 7月の気温は平年並か高いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 本田での初発生に注意し初期防除を徹底する。雨が続く場合、感染の危険性も高いので雨間に防除する。
- 2) 育苗時に葉いもちが発生していた場合、保菌率が高く本田で蔓延するので防除を徹底する。

2 ウンカ・ヨコバイ類（並）

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では、ツマグロヨコバイの発生面積率10.5%（平成8.7%）は平年並、ウンカ類は発生未確認であった。

[防除上の注意]

- 1) 育苗箱施薬剤を実施したほ場では、薬効期間や発生状況を考慮して防除する。
- 2) セジロウンカ、トビイロウンカについては、飛来源である中国南部の発生量が、昨年より多いことから、病害虫防除・肥料検査センターのホームページ等の発生予

察情報に注意する。

- 3) 梅雨期に飛来成虫が著しく多く、株当たり虫数が4頭以上(セジロウンカ)になると稲の生育が抑制されるので早めに防除する。

3 コブノメイガ (-)

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は飛来世代の次世代の発蛾最盛期に粒剤を施用するのが効果的なので、病害虫防除・肥料検査センターのホームページ等の発生予察情報に注意する。

野菜・工芸作物全般

1 アブラムシ類 (並)

[予報の根拠]

- 1) 黄色水盤トラップ(佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

[防除上の注意]

- 1) 各種のウイルス病を媒介するので、発生初期の防除に努める。

2 ハスモンヨトウ等チョウ目(鱗翅目)害虫 (並)

[予報の根拠]

- 1) フェロモントラップ(都城、西都、佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

[防除上の注意]

- 1) 早期発見に努め初期防除を徹底する。

トマト

1 トマト黄化葉巻病(TYLCV) (-)

[防除上の注意]

- 1) トマト黄化葉巻病はタバココナジラミ類(タバココナジラミ、シハ-リ-コナジラミ)によって媒介されるので、発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。
- 2) 栽培終了後は株を抜根し、10日間程度ハウスを密閉してタバココナジラミ類を死滅させた後、残さを処分する。
- 3) ほ場周辺の雑草はタバココナジラミ類の生息場所となり、次作への伝染源となるので除草を徹底する。また、ほ場外に持ち出したトマト残さや野良生えトマト等には特に注意する。
- 4) 育苗施設の開口部は、タバココナジラミ類の侵入を防ぐために、目合いの細かい防虫ネット(0.4mm以下)を設置し、育苗期間中は定期的に防除する。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (-)

[予報の根拠]

- 1) 県内5カ所に設置された予察灯への誘殺数は、ツヤアオカメムシは平年並か少ない、チャバネアオカメムシは平年より少ない傾向である。
- 2) 県北部(延岡市)に設置したフェロモントラップ調査では、4月中旬以降、チャバネアオカメムシが平年より多い傾向が見られる。また、ツヤアオカメムシについても一時的に多い時期(4月下旬~5月下旬)が見られた。

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。

かんきつ

1 黒点病 (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率5.0%(平成30.9%)、発病葉率0.4%(平成6.2%)は平成より少である。

[防除上の注意]

- 1) 防除適期は幼果期、梅雨期、8~9月上旬であるが、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回の防除から積算降水量300mmを散布間隔の目安として薬剤散布を行う。

2 かいよう病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率20.0%(平成16.3%)、発病葉率1.4%(平成1.5%)はいずれも平成並である。

- 2) ミカンハモグリガの発生面積率60.0%(平成57.5%)は平成並みである。

[防除上の注意]

- 1) 梅雨期に予防散布する。
2) ミカンハモグリガの防除に努める。

3 ミカンハダニ (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率15.0%(平成26.7%)は平成よりやや少、寄生葉率0.5%(平成2.9%)は平成より少である。

[防除上の注意]

- 1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%(1葉当たり虫数0.5~1頭)を目安に防除を行う。

4 チャノキイロアザミウマ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の巡回調査では発生面積率5.0%(平成3.0%)は平成よりやや多、寄生果率0.1%(平成0.3%)は平成並である。

- 2) 7月の気温は平成並が高いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 5月中旬から9月上旬の間、数回防除する。

茶

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率41.2%(平成35.0%)、 m^2 当たり病葉数2.5葉(平成2.0葉)はいずれも平成並である。

[防除上の注意]

- 1) 3番茶を摘採する茶園では3番茶芽の萌芽期~1葉期に防除し、3番茶を摘採しない茶園ではさらに秋芽の生育期にも防除する。

2 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 6月中旬の発生面積率52.9%(平成49.6%)、寄生葉率9.8%(平成7.4%)はいずれも平成よりやや多である。
 - 2) 7月の気温は平成並が高いと予想されている。
[防除上の注意]
 - 1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。
- 3 チャノコカクモンハマキ (並)**
- [予報の根拠]
- 1) 6月中旬の巡回調査では発生未確認である。
[防除上の注意]
 - 1) フェロモントラップ調査による発蛾最盛期は、都城市及び三股町では6月2半旬で、次の発蛾最盛期は7月3~4半旬頃と考えられる。
 - 2) 顆粒病ウイルスによる防除適期は、発蛾最盛期の10日後であるが、そのころは紫外線が強く、顆粒病ウイルスの活性が低下しやすいので曇天日や夕方に散布する。
- 5 チャハマキ (並)**
- [予報の根拠]
- 1) 6月中旬の巡回調査では発生未確認である。
[防除上の注意]
 - 1) チャノコカクモンハマキの発蛾最盛期と10日以上差がなければ、同時防除する。
- 6 チャノホソガ (やや多)**
- [予報の根拠]
- 1) 6月中旬の発生面積率23.5%(平成23.0%)は平成並、m²当り巻葉数1.9葉(平成0.9葉)は平成よりやや多である。
[防除上の注意]
 - 1) 平成の発蛾最盛期は6月下旬~7月上旬であるが、三角巻葉前に防除することが必要で、発蛾最盛期の約10日後(葉裏の表皮下でトンネル状に潜孔している時期)が防除適期である。
 - 2) 脱皮阻害剤は卵期~皮下潜葉期に散布する。
- 7 チャノミドリヒメヨコバイ (やや少)**
- [予報の根拠]
- 1) 6月中旬の見取り調査における発生面積率23.5%(平成30.3%)は平成並、寄生葉率0.8%(平成1.7%)は平成よりやや少である。
 - 2) 払い落とし調査による発生面積率、払落虫数はいずれも平成より少である。
[防除上の注意]
 - 1) 萌芽直後から1、2葉期を重点に防除する。
- 8 チャノキイロアザミウマ (やや多)**
- [予報の根拠]
- 1) 6月中旬の見取り調査における発生面積率64.7%(平成61.7%)は平成並、寄生葉率12.1%(平成8.2%)は平成よりやや多である。
 - 2) 払い落とし調査での発生面積率は平成並み、払落虫数は平成よりやや多である。
[防除上の注意]
 - 1) 3番茶を摘採する園では、新芽生育初期に加害されると減収程度が大きいため、萌芽期の防除が重要である。
 - 2) 深刈りなどの更新処理を行った園では茶芽の生育期間が長く、被害を受けやすいので残効の長い薬剤で防除する。
- 9 クワシロカイガラムシ (多)**
- [予報の根拠]
- 1) 6月中旬の発生面積率58.8%(平成20.4%)、寄生株率22.4%(平成7.1%)はいずれも平成より多である。
[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので発生を確認したら早めに防除する。
- 2) 防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期なので、ふ化状況をよく観察して防除する。
- 3) 薬剤散布は、成木園で10a当たり1,000リットル程度を目安に、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるようにていねいに散布する。

農薬散布時のドリフト対策について

- 1 ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要です。
- 2 風の弱いときに、ノズルや散布方向、噴霧圧力などに注意して、適正な農薬散布を心がけましょう。
- 3 地域でよく話し合い、農薬の使用時期や農産物の栽培内容などを十分調整しましょう。
- 4 農薬の散布について疑問点がありましたら、病害虫防除・肥料検査センターへお問い合わせください。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
 日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
 農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
 農林水産消費安全技術センターホームページ
 (旧 農薬検査所) <http://www.acis.famic.go.jp/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。
 特に水質汚濁性農薬、ソノビソ剤(商品名:リックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

3 発生量(程度)の区分

多い	(高い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	(やや高い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	(やや低い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない	(低い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 (平年値は過去10年間の平均)

4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指情報について随時発表する。(従来の防除速報にあたる)

お知らせ (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間

TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499

E-mail: byogaichu-hiryo

@pref.miyazaki.lg.jp